

学校の読書活動について

● 図書室の開放時間帯

基本的には小・中学校ともに20分休み、昼休みは開放（図書委員が貸出対応）
放課後は毎日ではない。（学校行事予定による）

● 図書室の開放や貸し出し対応する人（司書教諭・読書指導員・図書委員）

➤ 司書教諭の人数・役割

学校図書館法では、学校図書館の専門的職務を担う教員として、司書教諭を学校に置くこととしています。学級数が合計12学級以上の学校は司書教諭必置。

司書教諭は、教諭として採用された者が学校内の役割としてその職務を担当し、学校図書館資料の選択・収集・提供や子どもの読書活動に対する指導、さらには学校図書館の利用指導計画を立案し、実施の中心となるなど、学校図書館の運営・活用について中心的な役割を担います。

➤ 学校読書指導員の人数・役割

町費臨時職員として採用。1人で2校を担当。1校あたり年間61日勤務（週1～2日。学校休業日を除く）

職務内容は学校図書整理事務及び読書指導の支援。

➤ 図書委員

児童・生徒による委員会活動。

● 図書室の年間の図書購入費

【R元年度】小学校費：1,600,000円（5小学校）、中学校費：1,760,000円（3中学校）

※H30年度も同額

※各校の選書は司書教諭を中心に読書指導員や、中学校では教科的なものは教科担当教員に相談の上、購入している。

● 学校として児童・生徒へ図書室の利用をどう働きかけているか？授業で「図書の授業」は何年生まであるのか？（低学年は多く、高学年は図書室で本を借りなくなる理由は？）

➤ 調べ学習の授業は全学年あり、授業で図書室を利用することは多い。年間で学校内の全学級が利用をしている。

➤ 個人の図書貸し出しが低い理由は複数考えられる

図書が古い、新しい図書が少ない、展示の工夫がない、
朝読のため自前で本を購入するため読みたい本は手元にある、
家庭で読書習慣が根付いていない

- **朝読書の取組について**

- 小学校では読み聞かせの取組あり。
(例：週1回保護者によるボランティア活動)

- 中学校は町内3校とも朝10分間の朝読活動を実施。

- **特色ある読書活動を行っている学校はあるか？**

- ブックトーク、読み聞かせ、保護者OBによるボランティア活動 等